

■瀧山 たきやま いざノ報復	大奥最後の最高責任者。下級幕臣の娘から大出世，5代の将軍に仕えて，行事，人事，難事を取り仕切った。 1806＝ 四谷南伊賀町で，下級幕臣の御鉄砲百人組大岡権左衛門義方の娘に生まれる。名は多喜。
浮世床 ・ ・ ・ 1813＝ 7歳 : 手内職をして，家計を助けるようになる。	
・ ・ ・ ・ ・ 1815＝ 9歳 :	
水野忠成老中 1818＝12歳 :	
シボ^ル朴来日 ・ 1823＝17歳 : 大奥入り浸りで有名な，11代将軍徳川家斉の時代，*大奥にいた叔母染嶋の手引きで，奉公に上がると，すぐに，大奥で最も力を持つ上臈御年寄から，才覚を認められて，大奥の出入り口御鈴廊下の鍵番，すなわち，お目見え以上の御錠口に拔擢され，引き続いて，御客応答から，御年寄へと，わずか3日で昇進，	
シボ^ル朴鳴滝塾 1824＝18歳 : 日本外史 ・ ・ 1827＝21歳 : この年，将軍家斉の53人目となる最後の子が誕生している。	
シボ^ル朴追放 ・ 1829＝23歳 : この年，水戸藩主になった徳川斉昭は，藩政改革や幕府への建言などで有名であるが，女癖が悪く，大奥女中も被害を受けたことから，斉昭嫌いとなり，以後，度々，斉昭が幕府と衝突して失脚，復活を繰り返すことにも関係している可能性がある。これに関わらず，_常日頃，大奥の部下や同僚を思いやり，	
天保大飢饉始 1833＝27歳 :	
大塩平八郎乱 1837＝31歳 : _家斉が譲位し，その次男の徳川家慶が12代将軍になるも，家斉の大御所政治が続くこともあつてか，家慶の世子家祥(家定)付御年寄となつて，その母本寿院からは，特別に大事にされるようになる。	
勧進帳初演 ・ 1840＝34歳 : この年に将軍ないしは御台所から頂いた御所人形を生涯大事にしていたこと，つまり可愛がられていたことが，遺品から判明している。	
天保改革弾圧 1842＝36歳 : この間に，仲野という侍女と強い信頼関係が結ばれたようだ。	
阿部正弘首座 1845＝39歳 :	
尊徳報徳論 ・ 1851＝45歳 : ペリー来航 ・ 1853＝47歳 : 開国開港 ・ ・ 1854＝48歳 : *家慶が死去して，家定が13代将軍となると，最高位の将軍付御年寄になる。そして，家定の後嗣をめぐる大きな政争が起こり，島津斉彬はじめ改革派の大名や幕臣から能力ある将軍候補として推された(斉昭の子)一橋慶喜と，保守血統主義派にかつがれた紀州の慶福と対立関係に入るが(将軍継嗣問題)，斉昭嫌いかから，大奥上臈や本寿院らと共に紀州派となつて，一橋派と対立，慶喜を推す家定の御台所で島津出の篤姫を説得，家定をして，次期将軍を慶福に決定させるに至るとともに，篤姫からも，高く評価されるようになる。維新後に，徳川慶喜がまとめた回想録「昔夢会筆記」にあるように，老中以上の権力を持つ瀧山から嫌われていることが，将軍職を引き受けるのを渋ってもいたのである。	
五ヶ国条約 ・ 1858＝52歳 : _家定が死去した際には，多方面からお悔やみの金品が来るほどになっている。慶福が14代将軍家茂となり，その実母実成院が本丸大奥に入つても，将軍付御年寄のままであつたが，実成院はかなりの派手好きで，毎晩女中らと酒を飲み騒ぐため，実成院付の御年寄藤野に注意を促すも，聞き入れなかったため，実成院に直接と厳重注意するほど，怖れることなく，風紀にも配慮している。	
安政の大獄 ・ 1859＝53歳 : この年から，明治維新までの9年間，贈答のやり取りについて，その理由と金品等を詳細な日記に遺したこと から，事件等と突き合わせることで，最近になつて，瀧山の優秀さ，権力者ぶりが明らかになつたが，ま ず，この年，_本丸が炎上した際，大奥の御台所はじめ全員の避難から復興，再入居までの責任者にもなり，その都度，多額の功労金が出されている。大塩平八郎が乱を起こす理由となつた市民無視の大坂町奉行跡部良弼について，跡部家出の本寿院から良弼の出世を依頼されると，老中に至るまで，様々に工作し，	
桜田門外変 ・ 1860＝54歳 : 遣欧使節 ・ 1861＝55歳 : 生麦事件 ・ ・ 1862＝56歳 : _将軍家茂への降嫁が決定し，50kmにもなる行列で江戸下向してきた，孝明天皇の妹和宮を迎え，現在の価格で，1兆8千億円にもなる，*日本史上最大の婚礼を取り仕切り，以後，和宮からも信頼され，篤姫と並んで，最も多く贈り物をもたらっている。	
8月18日政変 1863＝57歳 : _なおも，毎晩女中らと酒を飲み騒ぐ実成院を咎めたところ，反省したかのように，その女中から，料理の差し入れがあり，食したところ，毒がもられていて昏倒，部下ら皆が祈りを捧げるうち，九死に一生を得て回復するが，今度は，放火されてしまう。その時も，神のお告げか，早くに気づいて助かっている。	
禁門の変 ・ ・ 1864＝58歳 : 跡部良弼は，3度目の江戸城留守居役になっている。田安慶頼は，御三卿の一つで，大奥にも出入りできる地位にあつたことから，日記にも頻繁に登場するが，	
薩長同盟 ・ ・ 1866＝60歳 : その慶頼から，内外の緊張の高まりで，江戸城の非常時には，将軍を天領甲斐国へ避難させようとするため，甲斐国に残る慶頼の所領を相模へ配置換えする案が浮上，それを何とか止めて欲しいとの依頼が，極上の品とともにあると，現将軍御台所和宮，前将軍御台所篤姫にかけあい，結局，その話を消してしまうほどの力も発揮，_諸大名からの贈り物も絶えなかった。神田の火災に際しては，つきあいのある商人たちに多額の見舞金を贈るなど，思いやりの精神が消えることはなく，仕えていた家茂が死去すると，	
大政奉還 ・ ・ 1867＝61歳 : *その一周忌後，大政奉還時に，おそらく，徳川家の将来を見限り，御年寄職を辞した。侍女仲野の生家を頼つて，叔母染嶋はじめ，2,300人の同僚，部下とともに，現在の埼玉県川口に，駕籠行列で下り，一旦，徳川将軍が日光参詣時に寄る場所になっている錫杖寺に落ち着き，	
明治維新 ・ ・ 1868＝62歳 : _生涯，子を持たなかつたことから，まもなく，仲野の親戚の子みねと幸次郎を夫婦養子として迎え，瀧山の苗字を名乗らせて，瀧山家を興し，その後は，思い出とともに，質素に暮らして，	
初の民間工場 1875＝69歳 : 三つの内乱 ・ 1876＝70歳 : _没し，錫杖寺に葬られた。わずかに残る遺品から，膨大な贈答のなか，地味で質素なものを大事にしていたことも判明，崩壊していく徳川家のなか，矜持を保つて，大奥のモラルを守り続けたといえよう。	
NHK「英雄の選択」(大奥贈答品日記)，	